

30年度 事業概要



ロゴマークには思いを込めました。

有度の里に関る全ての人が、自然と笑顔になれるように

いつも笑顔を大切にしたい、いつも笑顔を忘れずにいたい

言葉が理解いただけなくても笑顔と柔らかな温もりある接し方で、

心と心が通じ合いたい

目次

沿	革	3																					
法	人	概	要	5																			
法	人	の	状	況	7																		
職	員	配	置	表	9																		
法	人	組	織	図	10																		
平	成	30	年	度	決	算	状	況	11														
基	本	理	念	13																			
平	成	30	年	度	事	業	報	告															
				特	別	養	護	老	人	ホ	ー	ム	・	実	績	報	告	17					
				デ	イ	サ	ー	ビ	ス	・	実	績	報	告	19								
				シ	ョ	ー	ト	ス	テ	イ	・	実	績	報	告	21							
				ホ	ー	ム	ヘ	ル	プ	サ	ー	ビ	ス	}	実	績	報	告	22				
				24	時	間	定	期	巡	回	訪	問											
				居	宅	介	護	訪	問	サ	ー	ビ	ス										
				訪	問	看	護	ス	テ	ー	シ	ョ	ン	・	実	績	報	告	24				
				サ	ー	ビ	ス	付	高	齢	者	向	け	住	宅	実	績	報	告	25			
				栄	養	事	業	・	実	績	報	告	26										
				週	間	献	立	27															
				年	間	行	事	食	28														
				山	原	グ	ル	ー	プ	ホ	ー	ム	実	績	報	告	29						
				山	原	看	護	小	規	模	多	機	能	型	居	宅	介	護	実	績	報	告	30
				追	分	看	護	小	規	模	多	機	能	型	居	宅	介	護	実	績	報	告	31
				追	分	サ	ー	ビ	ス	付	高	齢	者	向	け	住	宅	実	績	報	告	32	
				指	定	居	宅	介	護	支	援	事	業	所	実	績	報	告	33				
				有	度	地	域	包	括	支	援	セ	ン	タ	ー	実	績	報	告	35			
				岡	船	越	地	域	包	括	支	援	セ	ン	タ	ー	実	績	報	告	37		

共同生活介護	39
放課後等デイサービス事業所	40
計画相談支援事業所	41
保育園事業	42
平成30年度 研修実施報告	43
ボランティア協力者・実習体験学習・慰問協力者	44
会議実施体系	45
苦情申出書	46

沿 革

平成15年 1月30日	社会福祉法人恵和会 認可 静岡県知事 健地第 520 号
平成15年 4月14日	診療所開設認可 静岡保健所長
平成15年 5月 1日	社会福祉法人恵和会 定款変更認可(住居表示、用地購入)
平成15年 5月 1日	特別養護老人ホーム有度の里 開所 50 床
平成15年 5月12日	介護老人福祉施設指定 静岡県知事認可
平成16年 3月 2日	日本財団平成 15 年助成事業 介護支援車の整備 (三菱 EK ワゴン)
平成16年 3月 8日	通所介護定員変更 静岡県知事(定員 35 名)
平成16年 3月16日	通所介護定員変更 静岡県知事(定員 40 名)
平成16年11月 1日	通所介護定員変更 静岡県知事(定員 45 名)
平成17年 9月27日	通所介護定員変更 静岡県知事(定員 50 名)
平成17年10月26日	社会福祉法人恵和会 定款変更認可(住居表示)土地購入
平成18年 4月 1日	静岡市有度地域包括支援センター受託事業
平成18年 4月 1日	予防短期生活介護事業
平成18年 4月 1日	予防通所介護事業
平成18年 4月 1日	予防訪問介護事業
平成18年 9月15日	静岡市老人福祉施設整備計画提出(雅笑)
平成19年 9月20日	建設工事着工
平成20年 4月30日	建設工事竣工
平成20年 5月 8日	静岡市認可承認
平成20年 5月14日	静岡県認可承認
平成20年 5月18日	ユニットケア特別養護老人ホーム雅笑開所 60 床
平成23年11月 1日	デイサービス定員 50 人から 55 人へ増員
平成24年 5月14日	特別養護老人ホーム恵和 開所 24 床
平成24年 7月 1日	定期巡回 随時対応型訪問介護看護事業
平成25年 5月 1日	デイサービス定員 55 人から 60 人へ増員
平成26年 7月15日	静岡市承認
平成26年 8月15日	サービス付き高齢者住宅 静岡市との事前協議完了
平成26年 8月26日	静岡市本登録申請完了
平成26年9月16日	グループホーム、小規模多機能型居宅介護 事前協議申請
平成26年 9月25日	介護職員初任者研修事業 静岡県指定
平成26年10月16日	建設工事着工
平成26年11月17日	グループホーム、小規模多機能型居宅介護事 前協議承認
平成27年 1月21日	介護職員初任者研修事業 静岡県研修指定
平成27年 2月16日	日本財団平成 26 年助成事業 介護支援車の整備 (日産キャラバン、ダイハツハイゼット、ホンダ N-WGN)
平成27年 3月 7日	介護職員初任者研修事業 開講
平成27年 3月31日	建設工事竣工

平成27年 5月12日	在宅総合サポートセンター有度の里開所 デイサービス 定員 60 人 デイサービス 2 単位目追加 定員 20 人 ショートステイ 定員 20 人から 33 人へ増床 サービス付き高齢者向け住宅 9 戸
平成27年 11月13日	在宅総合サポートセンター山原 建設工事着工
平成28年 5月30日	在宅総合サポートセンター山原 建設工事竣工
平成28年 6月15日	在宅総合サポートセンター山原 開所 グループホーム 定員18名 看護小規模多機能 登録定員29名
平成29年4月 1日	居宅介護訪問・移動支援事業
平成29年9月29日	保育園建設工事着工
平成30年3月 1日	障害福祉サービス大岩開所 相談支援事業 障害者グループホーム 定員20名 障害児放課後等デイサービス 定員15名
平成30年3月 5日	保育園建設工事竣工
平成30年3月30日	保育園静岡市認可承認
平成30年4月 1日	有度のにこにこ保育園開園 岡船越地域包括支援センター委託事業
平成30年5月 1日	在宅総合メディカルサポートセンター追分開所 看護小規模多機能型居宅介護 登録定員29名 サービス付き高齢者向け住宅 28戸
平成31年3月 1日	就労継続支援A型事業 就労支援ペアワーク開始

法人概要

1	施設所在地	静岡市清水区長崎新田311番地
2	設置主体	社会福祉法人 恵 和 会
3	事業代表者	理事長 栗 田 和 明
4	事業内容及び定員	特別養護老人ホーム 74名 ユニットケア 60名 短期入所生活介護事業 33名 通所介護事業 80名／1日 訪問介護事業 定期巡回 随時対応型訪問介護看護 訪問看護ステーション事業 居宅介護支援事業所 静岡市清水区有度地域包括支援センター サービス付高齢者向け住宅(有度) 9戸 サービス付高齢者向け住宅(追分) 28戸 介護職員初任者研修事業 グループホーム 18名 看護小規模多機能型(山原) 29名 看護小規模多機能型(追分) 29名 居宅介護訪問・移動支援 障害者グループホーム 20名 障害児放課後等デイサービス 15名 就労継続支援A型 10名
5	事業所番号	特別養護老人ホーム 2274200134 短期入所生活介護事業 2274200175 予防短期生活介護事業 2274200175 通所介護事業 2274200167 予防通所介護事業 2274200167 訪問介護事業 2274200159

予防訪問介護事業	2274200159
定期巡回随時対応型訪問介護看護	2294201112
訪問看護ステーション事業	2264290350
居宅介護支援事業	2274200183
有度地域包括支援センター	2204200238
岡船越地域包括支援センター	2204200337
グループホーム	2294201724
看護小規模多機能	2294201732
居宅介護訪問・移動支援	2214260792
相談支援事業	2234200174
障害者グループホーム	2224200127
障害児放課後等デイサービス	2254200476
就労継続支援A型	2214260917

6	法人認可	平成15年 1月 30日
7	事業開始	平成15年 5月 1日
8	建物構造	鉄筋コンクリート造
9	総床面積	有度の里 6,363.91 m ²
		サポートセンター有度の里 875.98 m ²
		サポートセンター山原 750.35 m ²
		大岩 304.72 m ²
		保育園 247.02 m ²
		サポートセンター追分 1474.01 m ²
10	敷地面積	有度の里 2,028.00 m ²
		サポートセンター有度の里 448.22 m ²
		サポートセンター山原 903.08 m ²
		大岩 432.11 m ²
		保育園 258.22 m ²
		サポートセンター追分 1441.68 m ²

法人の状況

役員構成(平成 31 年 3 月 31 日現在)

理事長・評議員	栗田 和明	評議員	阪根 聡子
理事・評議員	栗田 禮子	評議員	小澤 須美子
理事・評議員	遠藤 盛正	評議員	佐野 ふさ子
理事・評議員	伊藤 育男	評議員	宮野 美代子
理事・評議員	岡田 光男	評議員	土屋 みどり
理事・評議員	岡田 啓介	評議員	高木 厚子
理事・評議員	川嶋 敏秀	評議員	杉山 益二郎
理事・評議員	加藤 米男	評議員	杉田 政道
監事	岩本 功	評議員	望月 博司
監事	高木 美枝子		
外部委員	小澤 豊		

理事・評議員会開催状況

開催年月日	場 所	議 題
平成 30 年 6 月 11 日	相談室	1)現況報告 2)平成 29 年度事業報告 3)平成 29 年度収支決算報告 4)経理規程変更 5)定時評議員の開催承認 6)その他
平成 30 年 6 月 27 日	相談室	1)平成 29 年度事業報告 2)平成 29 年度収支決算報告 4)その他
平成 31 年 1 月 16 日	相談室	1)現況報告 2)新規事業の件 3)給与規程変更 4)経理規程変更 5)その他

平成 31 年 2 月 27 日	相談室	1)現況報告 2)平成 30 年度補正予算 3)その他
平成 31 年 3 月 28 日	相談室	1)現況報告 2)平成 31 年度 事業計画 3)経理規程変更 4)平成 31 年度 予算 5)監査報告 6)その他

職員配置表

※（ ）内は、準職員

平成 31 年 3 月 31 日現在

職種	特養 (短期入所 減免)	通所 介護	訪問 介護	訪問 看護	サ高住 有度	山原	追分	サ高住 追分	居宅 介護	有度 包括	岡船越 包括	大岩 (障害支援)	保育園	合計
施設長	1													1
生活相談員	5	4												9
主任介護支援専門員									4	2	1			7
社会福祉士										1	1			2
介護支援専門員	2					1(1)	2		2	3	1			11(1)
介護職員	59(25)	9(11)	4(8)			25(6)	9(4)							106(54)
看護師	7(3)	3		8(5)		3(1)					1			22(9)
作業療法士	2													2
理学療法士				1(2)										1(2)
柔道整復師	1													1
鍼灸あん摩師	1													1
管理栄養士	2(1)													2(1)
栄養員	10(8)					1	3							14(8)
保健師										3	1			4
定期巡回 兼 訪問介護所長			1											1
ヘルパー兼オペレーター			6											6
GH兼看多機管理者						1								1
看多機管理者							1							1
障害福祉サービス管理者												3		3
居宅訪問介護管理者												1		1
相談支援専門員												2		2
児童発達支援管理責任者												1		1
児童指導員												5(3)		5(3)
保育園管理者													1	1
保育士													8	8
世話人												5(8)		5(8)
介助員	(2)													(2)
支援員	(6)				(8)	(10)	(4)	(11)						(39)
宿直員	(4)													(4)
事務所長	1													1
事務員	3(2)													3(2)

事業活動収支計算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日
(社会福祉法人 恵和会)

経理区分	本年度決算額
サービス活動増減の部	
収入	1,481,744,049
支出	1,532,134,822
収支差額	-50,390,773
サービス活動外増減の部	
収入	8,622,327
支出	12,145,037
収支差額	-3,522,710
特別増減の部	
収入	202,005,410
支出	196,852,500
収支差額	5,152,910
当期活動収支差額	-48,760,573
繰越活動増減差額の部	
当期繰越活動収支差額	-48,760,873
前期繰越活動収支差額	779,443,482
基本金組入額	
次期繰越活動収支差額	730,682,609

資金収支計算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日
(社会福祉法人 恵和会)

経理区分	
事業活動による収支	
収入	1,494,985,780
支出	1,459,248,328
収支差額	35,737,452
施設設備等による収支	
収入	8,675,000
支出	83,940,464
収支差額	-75,265,464
財務活動による収支	
収入	200,200
支出	179,400
収支差額	20,800
当期資金収支差額合計	-39,507,212
前期末支払資金残高	747,336,132
当期末支払資金残高	707,828,920

貸借対照表

平成31年3月31日現在
(社会福祉法人 恵和会)

資産の部		負債の部	
流動資産	882,201,841	流動負債	319,272,502
固定資産(基本資産)	1,890,130,974	固定負債	896,690,327
固定資産(その他の固定資産)	108,182,853		
		負債の部合計	1,215,962,829
		純資産の部	
		基本金	214,785,718
		国庫補助金特別積立金	719,084,212
		次期繰越活動収支差額	730,682,909
		純資産の部合計	1,664,552,839
資産の部 合計	2,880,515,668	負債・純資産の部 合計	2,880,515,668

基本理念「我が家のごとく生活を送れる安らぎの家」

目 的

私達は社会福祉法人として、地域で果たさなければならない地域共生社会の実現に使命感を持ち、理念を実現していく上で専門職としてふさわしい知識・技術の向上を目指し、地域の生活に目を向け、すべての人々が、どこにいても 24 時間・365 日、安心・安全に尊厳を持って暮らすことのできる生活支援を追求し、常に最高のサービスが提供できるよう努力していくことを目的とする。

使 命

社会福祉法・老人福祉法・介護保険法の遵守

目 標

- 1) 笑顔とあいさつと礼儀に努める
- 2) 尊厳を支えるケアに全力で努める(ご利用者様・ご家族様本位のケアの確立)
- 3) 介護・医療・栄養、各職種連携体制・情報の共有体制
- 4) サービス・苦情・リスクマネジメント、危機管理の対応力強化
- 5) 地域に根ざした包括的ケアシステムの構築に努める
 - ① 地域共生社会の実現に向けた取り組み(社会福祉法・介護保険法・障害者総合支援法・児童福祉法)
 - ・ 地域住民の地域福祉活動への参加を促進するための環境整備
 - ・ 住民に身近な圏域で、分野を超えて地域生活の課題についての相談に総合的に応じ、関係機関と連絡調整等を行う体制を整備する。(行政地区担当者・地域包括支援センター・相談支援事業所・地域子育て支援拠点・社会福祉法人・NPO 法人等)
 - ・ 有度圏域において生活困窮者自立相談の関係機関が協働し、複合化した地域生活課題を解決するための体制を整える。
 - ② 地域の生活を守る拠点として、セーフティネット機能の構築
 - ③ 在宅総合サポートセンターの拠点の構築
 - ④ 保育園の構築
 - ⑤ 障害者事業の構築
 - ⑥ 研修事業及び評価事業の体系的取り組み

事業内容

- 1) 施設サービス
 - ・ 介護老人福祉施設
- 2) 在宅サービス
 - ・ 短期入所生活介護事業
 - ・ 通所介護事業
 - ・ 訪問介護事業
 - ・ 訪問看護事業
 - ・ 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業
 - ・ 指定居宅介護支援事業
 - ・ 有度地域包括支援センター事業
 - ・ 介護職員初任者研修事業
 - ・ サービス付高齢者住宅事業
 - ・ 認知症対応型共同生活介護事業
 - ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業
 - ・ 鍼灸マッサージ事業
 - ・ 精神障害者居宅介護事業
 - ・ 障害者居宅介護訪問・移動支援事業
 - ・ 相談支援事業
 - ・ 共同生活援助
 - ・ 障害児通所支援事業

事業目標

- 1) 有度の里職員は、一人ひとり誠意と親切心・まごころを基にした専門的(感性)サービス提供体制強化を作る。そして、有度の里マニュアル・標準基準書により、ご利用者様の安心と心豊かな生活の維持を目指し、社会に貢献する。
- 2) 来年の介護保険法改正により、より一層の介護・医療の連携を行い、自力による経営基盤の強化・確立を図る。そして平成 29 年度から経営体系改革のスタート年とし、3ヶ年計画で経営体制の確立を目指す。
- 3) 平成 29 年度～31 年度の共通目標
 - ① 特別養護老人ホーム 入所率定員の 98%以上
 - ② デイサービス 稼働率月平均 90%(予防の強化)
 - ③ ショートステイ 稼働率月平均 96%
 - ④ 訪問介護 平均 90 ケース(訪問 70 ケース、定期巡回 25 ケース)

- ⑤ 訪問看護 平均 50 ケース
- ⑥ 認知症対応型共同生活介護 稼働率月平均 95%
- ⑦ 看護小規模多機能型居宅介護 平均 25 ケース
- ⑧ 指定居宅介護支援事業 事業所平均一人 35 ケース(予防の強化)
- ⑨ 医療、介護、障害、保育 24 時間地域ケアの各職種との連携システム
の構築
- ⑩ 栄養事業 美味しい安全・安心な食事提供、野菜作り
の研究
- ⑪ 介護職員初任者研修事業及び研修体系の構築
- ⑫ リハビリテーション及び鍼灸マッサージ治療院の取り組み
- ⑬ 在宅総合サポートセンターの連携の取り組み
- ⑭ 保育園の研究
- ⑮ 障害者住居の研究
- ⑯ 医療特化型サービス付高齢者住宅の研究

事業方針

- 1) 笑顔、元気であいさつと礼儀に努める(法人及びサービス業が求める職員像)
 - ① 全職員の基本であり専門職として必要条件である。身に付け自分で意識付けし、自己トレーニング及び自己啓発を行う。
 - ② ご利用者様及び施設に訪れる人と目が合ったら、まず笑顔でアイコンタクトをとる。これはあなたを受け入れます、という気持ちを表す行為である。会話をしなくてもコミュニケーションができる。
 - ③ 職員同士で必ず「笑顔」で「あいさつ」をする。気持ち良く仕事をしたい意欲や、仲間を大切にしている仕事をしようという気持ちが伝わる。
 - ④ 礼儀(言葉・態度・姿勢)は、人を喜ばせ、幸せな気持ちにすることができると同時に、一方で人を傷つけ、悲しませ、辛い気持ちにさせることもある。
- 2) 尊厳を支えるケアに全力を尽くす(専門職員として当たり前の能力)
 - ① ご利用者様、ご家族様がお客様である認識
 - ② 対人理解やコミュニケーション技術(アサーション技術の意識)
 - ③ 認知症ケア、医療、看護との連携などに必要な知識・技術
 - ④ チームワークケアを確立(ご利用者様、職員同士の声かけ、やりがい、生きがい)

- ⑤ 深い人間理解と専門職としての倫理・道徳・モラル価値観など
- ⑥ 家族関係・精神面の地域ケア社会関係の維持、地域の力を引き出し活用できる力

3) 介護職員の能力向上策

研修部の体系的組織作り

- ① OJT(業務を通じてまたは関連して部下育成)
OFF-JT(職場外研修から内部研修へ)
SDS(自己啓発活動、資格取得)
- ② 目標管理体制(事業所目標、個人目標からフィードバックへ、資格取得バックアップ)
- ③ 各事業所リーダーによるスーパービジョンの確立、各バイザー、セプター、セプティのキャリアアップ

4) 社会貢献活動

- ① リハビリテーションの構築
- ② 教育研修部の構築(介護職員初任者研修・評価事業)
- ③ 24時間地域ケア機能の構築(在宅総合サポートセンターの構築)

平成30年度 特別養護老人ホーム有度の里 事業報告

【総括】

基本理念である「我が家のごとくやすらぎのある家」を常にサービスの中に取り入れ、ご利用者様が安心、安全に生活できるよう進めてきました。

ご利用者様が有度の里に入所され、生活の中に何を求めているのか、何を期待しているのかという事に重点を置き、季節の行事や外出、夏祭りや餅つき等できるイベントを行い、生活の中にアクセントが生まれていたと思います。

昨年度立ち上げた研修委員会と排泄委員会のスタンスも決まりつつあり、介護技術や知識の向上ができました。排泄委員会の中で褥瘡予防部門を設置し、研修を行い予防・早期発見に結びつけたいと思います。

また、利用者一人一人のニーズをケアカンファレンスで聞き出し、家族と一緒にケアをしていく事で、利用者様の生活質の向上とケア技術の向上に繋がったと思います。

恵和会で新たに設立した、就労継続支援A型事業所に業務連携で特養事業内部の細かい業務等の振り分けをし、業務委託を行いました。精神障害者と連携し関わりながら業務を遂行するシステム作り、引き継ぎがスムーズにでき、リハビリができる利用者様の回転数が大幅にあがり、たくさんの利用者様の個別機能訓練に貢献できました。また、車椅子整備、館内の清掃や消毒、ベッドメイキング等できる事が増え、支援員と協力し洗濯業務を行い、介護職員を間接的に補助できました。

緊急対応には、施設全体で取り組み周知・徹底し、迅速な対応に努めていくことができました。また、看取りケアには職員一人一人の思いと手厚いターミナルケアでご家族様に安心していただけるよう医師と多職種との連携に努めることができましたと思います。

職員間の情報共有、多職種との連携を図りながら気配り・心配り・目配りを大切に、常にご利用者様の目線でサービスができるよう努めてまいります。

入所 実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳							稼働率					
			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	入院	外泊	入所	退所	平均(人)	利用率(%)	
4月	52	1,470	0	60	300	625	485	0	0	0	2	2	49.0	98.0	
5月	50	1,529	0	62	341	630	496	0	1	0	0	1	49.3	98.6	
6月	50	1,442	0	60	352	577	453	0	1	0	1	1	48.1	96.1	
7月	49	1,519	0	62	372	620	465	0	1	0	0	0	49.0	98.0	
8月	51	1,496	0	62	372	626	436	0	2	0	2	2	48.3	96.5	
9月	50	1,480	0	60	360	660	400	0	0	0	1	0	49.3	98.7	
10月	50	1,550	0	62	403	651	434	0	0	0	0	0	50.0	100.0	
11月	51	1,482	0	60	390	628	404	0	1	0	1	1	49.4	98.8	
12月	50	1,407	0	62	372	563	410	0	1	0	0	3	45.4	90.8	
1月	48	1,454	0	62	372	653	367	0	1	1	1	0	46.9	93.8	
2月	48	1,321	0	56	321	644	300	0	2	0	1	0	47.2	94.4	
3月	49	1,453	0	62	434	692	265	0	2	0	1	2	46.9	93.7	
平均	50	1,467	0	0	61	366	631	410	0	1	0	1	48.2	96.5	
合計	598	17,603	0	0	730	4,389	7,569	4,915	0	12	1	10	12	48.2	96.5

入所(雅笑) 実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳							稼働率					
			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	入院	外泊	入所	退所	平均(人)	利用率(%)	
4月	59	1,729	0	119	356	624	630	0	1	1	2	1	57.6	96.1	
5月	59	1,789	0	124	310	713	642	0	1	0	1	1	57.7	96.2	
6月	60	1,775	0	120	305	690	660	0	0	0	1	0	59.2	98.6	
7月	60	1,834	0	124	307	690	713	0	1	0	0	0	59.2	98.6	
8月	60	1,819	0	122	265	719	713	0	2	1	0	1	58.7	97.8	
9月	59	1,745	0	150	270	641	684	0	2	0	1	1	58.2	96.9	
10月	60	1,808	0	155	293	675	685	0	2	0	1	1	58.3	97.2	
11月	59	1,744	0	150	352	582	660	0	0	1	1	0	58.1	96.9	
12月	60	1,808	0	155	372	626	655	0	3	1	1	1	58.3	97.2	
1月	57	1,668	0	154	335	533	646	0	3	1	0	4	53.8	89.7	
2月	59	1,576	0	140	307	516	613	0	1	0	5	0	56.3	93.8	
3月	60	1,831	0	155	372	558	746	0	0	1	1	0	59.1	98.4	
平均	59	1,761	0	0	139	320	631	671	0	1	1	1	57.9	96.5	
合計	712	21,126	0	0	1,668	3,844	7,567	8,047	0	16	6	14	10	57.9	96.5

入所(恵和) 実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳							稼働率					
			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	入院	外泊	入所	退所	平均(人)	利用率(%)	
4月	23	659	0	60	149	270	180	0	1	0	0	0	22.0	91.5	
5月	24	736	0	62	186	333	155	0	0	0	1	1	23.7	98.9	
6月	24	712	0	52	180	330	150	0	1	0	0	0	23.7	98.9	
7月	24	744	0	62	217	310	155	0	0	1	0	0	24.0	100.0	
8月	24	744	0	62	217	310	155	0	0	1	0	0	24.0	100.0	
9月	24	720	0	60	210	300	150	0	0	0	0	0	24.0	100.0	
10月	24	744	0	93	186	310	155	0	0	0	0	0	24.0	100.0	
11月	24	720	0	90	180	300	150	0	0	1	1	0	24.0	100.0	
12月	24	720	0	93	162	310	155	0	1	1	1	1	23.2	96.8	
1月	24	743	0	123	124	310	186	0	0	0	0	0	24.0	99.9	
2月	24	665	0	112	112	280	161	0	0	1	0	1	23.8	99.0	
3月	25	714	0	94	151	283	186	0	2	0	2	1	23.0	96.0	
平均	24	718	0	0	80	173	304	162	0	0	0	0	23.6	98.4	
合計	288	8,621	0	0	963	2,074	3,646	1,938	0	5	5	5	4	23.6	98.4

平成30年度 デイサービス有度の里 事業報告

【総括】

平成30年度は「早期退院者のサービスの在り方」をテーマに取り組みました。

退院後すぐにデイサービスを利用することで、どのように回復し、利用者様のメンタルの変化、利用者様家族の対応方法、利用者様のニーズ把握に取り組みました。

今まで早期退院者は、老人保健施設に行くことが多かったのですが、外部ケアマネージャーに対して有度の里デイのハード面の認知の向上を行うことにより、「退院後すぐに利用させてほしい」といったお話をいただくことができるようになりました。

これまでのデイサービスでの生活の流れとして、一日9時から16時30分までいただき楽しんでいただく流れが基本的でしたが、お客様のニーズに合わせ、2時間利用で入浴、機能訓練のみのお客様、3時間利用で入浴・機能訓練・昼食を食べて帰るお客様、午後から利用されるお客様など、色々な変化がありました。

今のところ短時間で利用されているお客様が、長時間に変更される方はいらっしゃらない状況なので、サービスの質の向上を目指す必要があると思いました。

デイサービスとして、短時間デイサービスの時間の流れが不慣れで、勉強不足な面があるので他の短時間デイサービスの事業所で参考になる面を吸収したいと思いました。

また、ご家族様の中には長時間利用していただきたい気持ち強い方も多くいらっしゃいます。ご家族様の権利とご本人様の気持ちでは、どうしてもずれがあり、ご家族様の要求が強くなることも多くありましたが、ご本人様の気持ちも尊重できるよう出来るだけ間に入り、ご相談を受けさせていただきました。

平成30年度も出入りの激しい年度でした。どうしても、ロングショート、入所、入院などで長期にデイサービスを休まれる方、廃止になる方が多くいらっしゃいました。その分、新規で入ってくる方も多く、利用者人数は過去最高でしたが、今年からの介護報酬削減により去年よりやや減収となっております。

静岡市の委託事業であるでん伝体操教室は、例年通りの推移となりました。

来年度もご利用者様、ご家族が抱えている問題に対応し支援できるように努め、老人会や地域での行事などへの参加をし、地域貢献をしていきたいと思っております。

デイサービス実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	総合事業			介護利用者内訳						食事	入浴		1日平均(人)	利用率(%)
			要支援1	要支援2	総合事業	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他		一般	特浴		
4月	137	1,328	36	80	0	353	442	219	131	67	0	1,272	1,053	0	53.1	66.4
5月	138	1,414	37	92	0	342	446	266	170	61	0	1,344	1,116	0	52.4	65.5
6月	139	1,390	33	112	0	324	431	285	144	61	0	1,328	1,094	0	53.5	66.8
7月	137	1,402	35	115	0	299	463	294	140	56	0	1,347	1,087	0	53.9	67.4
8月	139	1,407	37	104	0	309	466	274	160	57	0	1,336	1,087	0	52.1	65.1
9月	140	1,326	43	95	0	265	461	275	140	47	0	1,262	1,040	0	53.0	66.3
10月	141	1,406	47	113	0	279	478	277	163	49	0	1,330	1,093	0	52.1	65.1
11月	138	1,403	48	115	0	252	502	274	160	52	0	1,321	1,087	0	54.0	67.5
12月	137	1,332	34	95	0	235	487	261	168	52	0	1,332	1,254	0	53.3	66.6
1月	135	1,209	35	89	0	228	485	186	149	37	0	1,141	938	0	50.4	63.0
2月	132	1,222	38	82	0	224	494	204	152	28	0	1,155	920	0	50.9	63.6
3月	133	1,335	44	100	0	229	550	224	171	17	0	1,267	1,028	0	51.3	64.2
平均	137	1,348	39	99	0	278	475	253	154	49	0	1,286	1,066	0	52.5	65.6
合計	1,646	16,174	467	1,192	0	3,339	5,705	3,039	1,848	584	0	15,435	12,797	0	52.5	65.6

平成30年度 ショートステイ有度の里 事業報告

【総括】

地域包括ケア病棟からのリハビリを目的とした一時的な受け入れだけでなく、急性期、回復期からの受け入れ件数も増加しました。日常生活の中で実施する生活リハビリ、機能訓練士による個別機能訓練に力を入れ、利用者様の在宅生活復帰支援を行うことのできる施設としての認識を各医療機関や居宅介護支援専門員に持って頂けるようになり、問い合わせや依頼件数が増加しました。医療機関からの依頼件数増加に伴い、医療面での知識や対応を求められる機会も多く、医療機関との連携が大変重要であると感じました。また、受け入れの時だけではなく受診時等、必要時は担当医師や看護師との情報共有や報告等を積極的にさせて頂きました。医療機関はもちろん、ご家族様にも大変ご好評頂きました。

スタッフ間での情報共有もこまめに行い、ご利用者様の細かな状態把握を心がけ、ご家族様や居宅介護支援専門員、主治医など医療機関との連絡等、積極的に関わりを持たせて頂きました。ご利用者様、ご家族様の状態の把握、介護相談、居宅介護支援専門員との連携、迅速な対応が信頼関係の構築や定期的なご利用につながったのではないかと思います。

来年度、ご家族様はもちろん、ご利用者様が来て良かった、有度の里で良かったと思ってもらえるようなサービスの提供を目標とします。日々の生活全般のケアや声掛けにより安心して過ごして頂くとともに、外の空気に触れ季節を感じて頂けるような外出の機会を設け、楽しく、穏やかに、安心できる雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めます。

ご家族様や担当の居宅介護支援専門員の情報等を最大限に活用し、短期入所サービス計画書、状況報告書を作成し、利用時の情報を細かく報告させて頂きます。また、昨年度より力を入れていただいている医療機関との連携にも継続して力を入れていきます。必要時は担当医師や看護師の間に入らせていただき、ご家族様からも喜ばれる、信頼される柔軟な考えや対応を心がけ、医療面での連携も大切にしていきたいと思っております。

ショートステイ実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	予防		介護利用者内訳							送迎	1日平均(人)	利用率(%)
			要支援1	要支援2	ユニット	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他			
4月	76	1,145	0	0	8	50	188	268	402	212	17	199	38.2	115.7
5月	77	1,121	0	0	0	25	209	300	357	213	17	206	36.2	109.6
6月	83	1,050	0	2	0	20	191	309	328	186	14	265	35.0	106.1
7月	75	1,101	0	0	0	17	183	255	433	197	16	221	35.5	107.6
8月	84	1,190	0	2	0	22	158	259	562	167	20	168	38.4	116.3
9月	78	1,082	0	21	0	25	164	246	481	127	18	202	36.1	109.3
10月	74	1,111	0	9	0	25	157	343	444	117	16	202	35.8	108.6
11月	72	1,020	0	0	0	14	124	278	489	101	14	175	34.0	103.0
12月	75	1,104	0	3	0	20	116	335	479	136	15	172	35.6	107.9
1月	72	1,060	0	4	0	60	93	312	478	100	13	152	34.2	103.6
2月	66	949	0	0	0	33	86	284	454	78	14	155	33.9	102.7
3月	66	1,053	0	0	0	38	66	333	541	61	14	157	34.0	102.9
平均	75	1,082	0	3	1	29	145	294	454	141	16	190	35.6	107.8
合計	898	12,986	0	41	8	349	1,735	3,522	5,448	1,695	188	2,274	35.6	107.8

【総括】

人手不足が深刻化し他事業所(訪問介護事業所等)では、統合あるいは休止になる所もあり、在宅介護を取り巻く環境は厳しい状況が続きました。

ヘルパー室においても同様で、個々の職員のモチベーションを保つにはどうすればいいのか、あるいは、サービスの提供について利用者様が住み慣れた地域で 24 時間 365 日安心安全に生活を送る事が出来る為にはどうしたら良いのか、など様々な課題にぶつかり立ち止まる事や振り返る事の多い 1 年になりました。

活動内容ですが、24 時間体制で職員を配置し切れ目の無いサービスを提供し、体調不良時や緊急時において随時対応しました。状態によっては早期受診にもつなげられるよう、訪問看護ステーション等と連携を図り、適切なサービスを提供してきました。

その他にも介護サービス(訪問介護等)及び障害者サービス(居宅介護等)を横断させたシステムを伸展させる為、新たにサービス提供責任者を配置し、障害から介護へ切りはなさなくても継続的に支援が可能なシステムを構築し、共生社会の実現に向けて事業を進めてきました。

職場内においても、職員の意見を聞きながら内外部の研修へ参加しやすい環境を整え、その他にも個々のレベルに合わせ難しいケースにもチャレンジができるようサポート体制を作り、個々の職員がスキルアップしていけるよう人材育成にも力を入れてきました。

【事業内容】

1. サービスの質の向上
 - ・スケジュール管理、職員拡充
 - ・業務分担(役割の明確化・作業効率のアップ)
 - ・介護をベースにしながら障害と組み合わせた体制作り
2. 人材育成
 - ・定期的な研修参加(自己啓発のバックアップ:各団体が行っている外部研修への参加)
 - ・カンファレンスや事例検討会を定期的実施
 - ・個別面談
3. 介護・看護の連携強化
 - ・連携体制の確立(利用者様に対してアセスメント、随時対応サービスにあつたての提供体制の確保、介護・医療連携推進会議、相談・助言等)
4. 在宅生活の限界点を上げる
 - ・24 時間対応の体制管理
 - ・利用者様の ADL 維持向上を目指した支援

ホームヘルパー実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	総合事業			介護利用者内訳						定期巡回訪問						
			要支援1	要支援2	総合事業	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	実人数	延人数	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	60	748	18	66	0	186	172	31	95	180	0	15	1,209	107	331	232	409	130
5月	57	721	21	69	0	191	178	37	91	134	0	14	1,128	174	272	229	318	135
6月	62	762	21	63	0	189	168	86	112	123	0	15	1,046	92	384	121	319	130
7月	61	742	19	69	4	161	164	86	134	105	0	16	1,181	135	409	210	292	135
8月	62	750	40	65	9	166	163	51	148	108	0	17	1,221	16	550	248	273	134
9月	60	687	30	59	8	159	132	32	166	101	0	18	1,123	57	517	107	317	125
10月	58	705	35	66	9	168	122	49	153	103	0	18	1,246	34	573	169	341	129
11月	63	705	32	67	9	170	141	50	136	100	0	17	1,193	11	542	151	354	135
12月	63	688	28	79	0	144	140	67	136	94	0	18	1,159	36	528	125	349	121
1月	58	662	20	80	0	134	141	103	141	43	0	18	1,278	43	536	169	265	265
2月	58	645	18	78	0	136	127	87	156	43	0	16	954	11	333	146	231	233
3月	62	711	20	92	0	147	135	84	213	20	0	16	1,077	28	389	170	237	253
平均	60	711	25	71	3	163	149	64	140	96	0	17	1,151	62	447	173	309	160
合計	724	8,526	302	853	39	1,951	1,783	763	1,681	1,154	0	198	13,815	744	5,364	2,077	3,705	1,925

平成30年度 訪問看護ステーション有度の里 事業報告

【総括】

今年度より追分の看護小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者住宅に訪問看護が併設することになり、単独の訪問以外に関わることが多く、訪看の看護師の在り方が多機能になっています。訪看でできる仕事の可能性を拡大していき柔軟性のある事業所として活動していこうと昨年度に報告しています。

現在、訪問看護ステーションのスタッフも14人となり各方面で活躍しています。

山原のグループホーム、追分の看護小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者住宅、大岩の放課後等デイサービス、有度の里の就労支援A型ベアワーク、定期巡回との連携、居宅から依頼の訪問看護、病院や福祉関係から依頼の医療や精神の訪問看護等、多岐に渡り活動しています。利用者総数としましては130名程となります。

医療方面からの依頼で処置や看取り看護等、家族や本人の要望を聞き入れながら、主治医や多職種との連携を密にし、デスカンファを行い振り返りの機会を設けました。全ての看護に対し、同じものではなく個別性を尊重しながら利用者に寄り添うことができました。

また理学療法士も各場所で活躍しており、介護職との連携で退院後の在宅復帰を積極的に支援しています。

在宅生活が増えている中、高齢者や障がい者、障害児を支えていく場所に依りて、訪問看護ステーションは活動の場を広げています。

今後は研修や自己学習を強化し、新しい知識や技術の習得、制度等の勉強も積極的にすすめていきたいと思えます。

訪問看護ステーション実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳								
			医療	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
4月	47	222	138	1	0	11	29	14	19	10	0
5月	47	232	143	3	0	15	28	14	15	14	0
6月	46	222	153	2	0	4	27	13	13	10	0
7月	49	243	178	2	0	3	23	14	13	10	0
8月	47	235	162	3	0	7	23	13	18	9	0
9月	44	194	126	2	0	13	24	8	6	15	0
10月	44	244	160	2	0	16	28	9	9	20	0
11月	46	237	148	2	0	21	25	4	9	28	0
12月	48	233	170	2	1	12	24	5	9	10	0
1月	49	216	153	2	4	14	24	1	4	14	0
2月	48	218	150	2	4	23	23	0	5	11	0
3月	48	252	185	2	4	25	23	0	4	9	0
平均	47	229	156	2	1	14	25	8	10	13	0
合計	563	2,748	1,866	25	13	164	301	95	124	160	0

平成30年度 サービス付き高齢者住宅有度の里 事業報告

【総括】

サービス付高齢者住宅において、平成30年度に2名の退居、2名の入居がありました。1名は居室内での転倒により、室内での生活動作に介護が必要となり退居されています。もう1名の方は、肝硬変の末期状態で病状が悪化し、入退院を繰り返しながらサービス付高齢者住宅に戻られ生活されていましたが、常時見守りにて病状観察が必要な状態となり、看取りでの退院を機に併設されたショートステイ先で看取らせていただきました。ショートステイを利用するまでは定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを利用しながら生活をされていました。肝硬変の末期患者様であったため、日ごとの状態変化が激しく、サービス付高齢者住宅の安否確認だけでは対応が難しく、ヘルパーとの連携が強く求められる状況でした。

サービス付高齢者住宅の生活支援員の業務についても個別の対応が求められる状況で緊急対応の必要があり、緊急時のフローの確認を密に行い対応をさせていただきました。

開所後3年が経過し、業務の形が確立してきたこともあり、手探りであった生活支援員の役割も入居者一人ひとりに合わせた個別ケアが実践できてきたように実感しています。

入居者様からの温かい食事をしたいというニーズに昼食を生活支援員が最終的に仕上げたり、行事への参加をしたり外出支援にも取り組むことができ、入居者様からも好評を頂くことができました。

そんな中でも課題として、医療ニーズが高い入居者の受け入れ態勢など夜間帯、職員が不在となる状況から受け入れが難しい状態も見られており、より一層の他事業所との連携を強化していかなければならないと感じています。そんな中で他事業所との情報共有が不十分な状況もあり今後の課題としてあげられます。

サービス付高齢者住宅が介護保険外のサービスに位置付けられていますが、担当ケアマネ、事業所への情報発信を積極的にとり入居者様の状況を伝えていかなければならないと感じています。

生活の場であることから入居者様と多く接する事業所でもありますので、入居者様の代弁者としての役割をもっていきたいと考えます。

有度の里 サービス付き高齢者住宅実績報告書(平成30年度)

月	実利用者数	延利用者数	食事(人)			1日平均(人)	利用率(%)
			朝	昼	夕		
4月	9	259	126	150	175	8.6	95.9
5月	8	248	141	160	179	8.0	88.9
6月	9	270	162	173	195	9.0	100.0
7月	9	279	171	186	204	9.0	100.0
8月	9	279	173	188	206	9.0	100.0
9月	9	270	162	184	199	9.0	100.0
10月	9	279	167	190	200	9.0	100.0
11月	9	270	164	183	188	9.0	100.0
12月	9	279	165	188	209	9.0	100.0
1月	9	279	175	204	206	9.0	100.0
2月	9	228	153	174	186	8.1	90.5
3月	9	279	193	210	231	9.0	100.0
平均	9	268	163	183	198	8.8	97.9
合計	107	3,219	1,952	2,190	2,378	8.8	97.9

【総括】

栄養ケア・マネジメントについては、ご利用者様の食事時の様子観察を行い、カンファレンス等で他職種の意見を取り入れ、個々の状態に合った栄養ケア計画を作成できるよう努めています。認知機能や摂食・嚥下機能の低下により食事の経口摂取が困難になっても、出来る限り自分の口から食べる楽しみを得られるよう、多職種による支援の充実を図ります。看取りケアの際にも個人を尊重した食事提供ができるように努めています。調理業務では、毎日の食事が栄養状態の改善につながるように、栄養ケア計画に基づき、摂食能力に合わせた食形態の作成に努めています。また、栄養事業の基本方針である「安全でおいしく、心のこもった食事作り」をもとに衛生管理の徹底、家庭的な雰囲気 연출し、季節が感じられるメニューの提供を行っています。衛生管理の徹底においては作業工程を見直し、統一して調理が行えるように作業工程表と調理手順表を作成しています。各種季節の行事食については、見た目からも喜んでいただけるような食事作りを心がけています。

【給食実施状況】

・総食数	203163 食 (内 デイサービス 15125 食 ・ 職員 3269 食)			
・提供時刻	朝食 7:30 昼食 12:00 おやつ 15:00 夕食 17:30			
・食材費	1 日平均 676 円			
・平均栄養給与量	エネルギー	1,453 kcal	レチノール当量	609 μ g
	たんぱく質	55.5 g	ビタミン B1	0.66 mg
	脂質	33.6 g	ビタミン B2	0.71 mg
	カルシウム	465 mg	ビタミン C	88 mg
	鉄	7.3 mg	食塩	7.3 g

【行事食実施状況】

・一般行事食	34 回	
・お寿司の日	11 回	
・選択メニュー	4 回	
・郷土料理	1 回	
・居酒屋	11 回	
・その他イベント	7 回	※献立の詳細は、別紙記載

【衛生管理】

・ゴキブリトラップ調査	毎月
・保菌検査の実施	年 12 回
・記録簿の活用	検収簿、食品の加工加熱記録、使用水の点検、施設清掃点検表 調理従事者の衛生管理点検表 納入業者保菌検査

【実習生受け入れ】

平成 31 年 3 月 4 日～平成 31 年 3 月 8 日

週間献立

平成30年 3月18日～24日

	朝食	昼食	おやつ	夕食
18 (月)	ごはん さばの塩焼き キャベツの煮びたし みそ汁(大根) 乳飲料(ラブミー)	カレーライス ブロッコリーのサラダ フルーツポンチ 漬物	くずあん	にゅうめん シューマイ 菜の花と三つ葉のごま和え フルーツゼリー (おむすび)
19 (火)	スティックパン チーズサラダ コーンスープ 牛乳 フルーツ(バナナ)	ごはん かき揚げ 湯葉巻チキン みそ汁(つみれ) 天つゆ	人参ゼリー	ごはん 舌平目のムニエル チンゲン菜のソテー みそ汁(舞茸・えのき) めかぶ
20 (水)	ごはん 厚焼きたまご きゅうりの塩昆布和え みそ汁(もやし) ジョア	山菜おこわ さわらの粕漬け焼き さつま揚げの煮物 みそ汁(小松菜) フルーツ(みかん缶)	あんまん	ごはん 鶏肉のハーブ焼き ごぼうのサラダ みそ汁(豆腐) のり佃煮
21 (木)	クリームパン 野菜炒め コンソメスープ 牛乳 フルーツ(キウイ)	親子どんぶり アスパラサラダ フルーツ(白桃缶) すまし汁(なめこ)	牡丹餅 《春分の日》	ごはん 鮭のパン粉焼き かぶの酢の物 みそ汁(ほうれん草) たくあん漬け
22 (金)	ごはん 納豆 里芋の煮物 みそ汁(白菜) 乳酸菌飲料(コロラ520)	ごはん 豚肉のポン酢炒め インゲンとツナの和え物 みそ汁(じゃがいも) フルーツ(りんご缶)	マーラーカオ	ごはん 太刀魚の煮付け 蒸しなす みそ汁(あさり) しば漬け
23 (土)	チョコデニッシュパン トマトオムレツ もやしスープ 牛乳 フルーツ(バナナ)	ごはん マグロステーキ ほうれん草のピーナツ和え みそ汁(きのこ) うぐいす豆煮豆	かぼちゃプリン	ごはん ぎょうざ もやしのナムル 豆腐のスープ ぎょうざのつけたれ
24 (日)	ごはん 鯛のおかか煮 松前煮 みそ汁(キャベツ) 飲むヨーグルト	ごはん すき焼き風煮 長芋とオクラの和え物 すまし汁(ちくわ) さくら漬け	大学芋	ごはん ホキの香味焼き かぼちゃの煮付け みそ汁(そうめん) レバーのしぐれ煮

平成30年度 年間行事食

月	日	行事	献立
4	1	お寿司の日	にぎり寿司 白菜の煮浸し すまし汁 フルーツ
	12	選択メニュー	鶏つくねの利休焼き めかじきの利休焼き
	16	お花見献立	桜寿司 白身魚の酒蒸し きゅうりのしそ和え みそ汁 うぐいす煮豆
	26	お花見献立	桜ご飯 さばの塩焼き 白和え みそ汁 もずく酢
	28	居酒屋	ごはん 赤魚の粕漬焼き 筍の煮物 けんちん汁 レバーのしぐれ煮
	29	昭和の日	赤飯 豚肉と大根の煮物 わらびのおかか和え みそ汁 たまご豆腐
5	1	お寿司の日	筍のちらし寿司 湯葉巻チキン すまし汁 フルーツ
	2	八十八夜	茶飯 鮭の照り焼き ほうれん草のなめ茸和え みそ汁 昆布豆 抹茶蒸しケーキ
	3	みどりの日	ごはん 桜えびのかき揚げ きゅうりのしそ和え みそ汁 天つゆ
	5	こどもの日	えんどう御飯 かつおのたたき 筍の煮物 すまし汁 ごま豆腐 柏餅
	12	開所記念日	お赤飯 筑前煮 ほうれん草のくるみ和え みそ汁 たまご豆腐
	13	母の日	ちらし寿司 しんじょうの野菜あん 若竹汁 フルーツゼリー
	20	選択メニュー	魚の干草焼き 鶏肉のにんにくオイル煮
	31	居酒屋	ごはん 豚肉のボン酢炒め 小松菜の煮びたし みそ汁 なめ茸おろし
6	1	お寿司の日	穴子のちらし寿司 切り干し大根の炒め煮 みそ汁 フルーツ
	17	父の日	いなり寿司 しんじょうの野菜あん すまし汁 フルーツゼリー
	21	選択メニュー	ピラフ ナポリタン
	29	居酒屋	ごはん 牛肉となすの炒め物 きゅうりの酢の物 みそ汁 高菜漬け
7	1	お寿司の日	ちらし寿司 切り干し大根の炒め煮 ビーナツ和え みそ汁
	7	七夕	そうめん うざく 蟹つみれのあんかけ おむすび すいか セタ☆ゼリー
	16	海の日	夏野菜カレー フロッキーのサラダ メロン 漬物 アイスクリーム
	20	土用の丑の日	鱧丼 長芋とオクラの梅肉和え 冬瓜汁 フルーツ
	23	郷土料理	高菜めし えびしゅうまい すいか つぼん汁 (熊本県)
	31	居酒屋	鮭わかめごはん 鶏肉のねぎ味噌焼き きゅうりの酢の物 すまし汁
8	1	お寿司の日	あなごのちらし寿司 小松菜のお浸し すまし汁 フルーツ
	11	山の日	富士山ゼリー
	15	終戦記念日	麦ごはん 鮭の粕漬焼き かぼちゃのいとこ煮 すいとん すいか
	19	夏祭り	焼きそば おでん 枝豆
	31	居酒屋	ごはん 八宝菜 春雨の和え物 ワンタンスープ しば漬け
9	1	お寿司の日	ちらし寿司 ひじきの煮物 みそ汁 フルーツゼリー
	16	敬老式典	赤飯 天ぷら 金目鯛の西京焼 豚肉と玉ねぎの甘煮 とろまぐろ 茶碗蒸し お吸物 メロン 紅白饅頭
	17	敬老の日	ちらし寿司 きゅうりの塩昆布和え すまし汁 梨 手作りモンブラン
	23	秋分の日	松茸ごはん さんまの塩焼き 蒸しなす かきたま汁 さつま芋の甘煮 おはぎ
	24	十五夜	月見うどん しんじょうの野菜あん ほうれん草のクルマ和え フルーツゼリー おむすび
	29	居酒屋	ごはん 寄せ鍋風 アスパラとトマトのサラダ フルーツゼリー レバーのしぐれ煮
10	1	お寿司の日	にぎり寿司 切り干し大根の炒め煮 みそ汁 フルーツ
	19	秋の収穫祭	豚汁 焼き芋
	31	ハロウィン	ごはん かぼちゃコロッケ わさび和え みそ汁 たまご豆腐 南瓜プリン
	31	居酒屋	松茸ごはん 鮭の干草焼き インゲンの胡麻和え すまし汁 レバーのしぐれ煮
11	3	文化の日	にぎり寿司 切り干し大根の炒め煮 すまし汁 フルーツ
	23	勤労感謝の日	赤飯 揚げ出し豆腐 さつま揚げの煮物 みそ汁 フルーツ
	30	居酒屋	梅ちりごはん おでん 白菜のボン酢和え フルーツ
12	22	冬至	ごはん 鯖の柚庵焼き かぼちゃの煮付け みそ汁 金時豆
	23	天皇誕生日	お赤飯 筑前煮 インゲンとツナの和え物 みそ汁 フルーツ
	24	クリスマス・イブ(昼食)	炒飯 中華3品盛り合わせ フロッキーの淡雪あんかけ 白菜の中華スープ 杏仁豆腐 苺のカスタードプリン
	24	クリスマス・イブ(夕食)	ごはん ミートローフ 小松菜のお浸し みそ汁 ふりかけ
	25	クリスマス(昼食)	にぎり寿司 オクラのなめ茸和え 星型ゼリー すまし汁
		クリスマス(夕食)	エビピラフ かぼちゃのクリームシチュー レタスのサラダ りんご
	28	餅つき	大福
	31	大晦日	年越しそば かき揚げ きゅうりのゆかり和え いちご おむすび
1	1	新年会	ごはん お刺身 煮しめ 黒豆 (夕飯)じゃこ飯 鶏つくねの照り焼き
	2	正月メニュー	お雑煮 おせち料理 三色なます 甘酒・紅白水羊羹 (夕飯)ちらし寿司
	3	正月メニュー	ごはん ぶりの照り焼き たたきごぼう風和え物 みそ汁 フルーツ あんまき
	7	七草	七草粥
	11	鏡開き	お汁粉
	15	小正月	小豆粥 鯖の柚庵焼き 里芋のそぼろあん 黒豆 みそ汁
	31	居酒屋	ごはん グリルチキン じゃが芋の煮物 かきたま汁 高菜漬け
2	3	お寿司の日(昼食)	にぎり寿司 きんぴらごぼう すまし汁 フルーツ
	3	節分(夕食)	いり豆御飯 甘酒・海老せんべい
	11	建国記念の日	お赤飯 鮭の粕漬焼き きゅうりのしそ和え すまし汁 ごま豆腐
	22	猫の日	ネコ型クッキー
	23	富士山の日	富士山ゼリー
	28	居酒屋	ごはん エビチリ きゅうりの塩昆布和え わかめスープ いちご
3	3	ひなまつり	ちらし寿司 菜の花和え みそ汁 ひなまつりゼリー ロールケーキとひなあられ
	14	ホワイトデー	桜もち
	21	春分の日	牡丹餅
	30	選択メニュー・居酒屋	天津飯orタコライス 小松菜のごま和え フルーツゼリー けんちん汁

平成 30 年度 グループホーム 事業報告

【総括】

グループホーム山原は開所し三年目を迎えました。

法人内の事業所との連携はもちろんですが、他事業所とのつながりが増え、新規利用者様の受け入れがスムーズとなりました。

暮らしの継続をモットーに、その人らしく生活できるよう個別ケアを基本に、残存機能の低下防止や下肢筋力の低下防止にも力を入れて取り組んできました。

ご家族からの相談や希望にも柔軟に対応し、多職種連携を図りその方に合った環境づくりやケアの在り方を考え支援してきました。

また、状態変化時にはご家族様と密に連絡を取り合い、ご本人様やご家族様の希望に寄り添いながら、支援していくことが出来ました。

来年度は残存機能を生かした支援や認知症ケアの専門職を高め、研修等によりお互いに学ぶ機会を設け、ご本人様・ご家族様の意向に近づけるような支援を行っていきます。

グループホーム 実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳							稼働率					
			要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	入院	外泊	入居	退居	平均(人)	利用率(%)
4月	18	523	0	133	210	150	0	30	0	1	0	0	0	17.4	96.9
5月	17	527	0	124	217	155	0	31	0	0	0	0	0	17.0	94.4
6月	18	518	0	90	188	180	30	30	0	2	0	1	0	17.3	95.9
7月	18	516	0	93	199	162	31	31	0	0	0	0	0	16.6	92.5
8月	18	543	0	93	186	171	31	62	0	1	1	0	1	17.5	97.3
9月	18	515	0	90	185	150	60	30	0	0	0	1	0	17.2	95.4
10月	18	550	0	93	217	155	62	23	0	1	0	0	0	17.7	98.6
11月	18	536	0	120	180	150	60	26	0	0	0	0	0	17.9	99.3
12月	18	540	0	93	199	155	62	31	0	1	0	0	0	17.4	96.8
1月	18	558	0	93	155	186	62	62	0	0	1	0	0	18.0	100.0
2月	18	494	0	84	130	168	56	56	0	1	0	0	0	17.6	98.0
3月	17	518	0	93	124	186	62	53	0	1	0	0	1	16.7	92.8
平均	18	528	0	100	183	164	43	39	0	1	0	0	0	17.4	96.5
合計	214	6,338	0	1,199	2,190	1,968	516	465	0	8	2	2	2	17.4	96.5

平成30年度 山原 看護小規模多機能型居宅介護 事業報告

【総括】

山原 看護小規模多機能型居宅介護は三年目を迎えました。

主に看取りの方やガン末期の方など重度の方の受け入れが多くありました。

在宅復帰を目指す中で、ご本人はもちろんご家族様の意向なども変化する上で、ご家族様と何度も話し合いを設け、施設入所への準備を進めていくことや実際在宅復帰へ向けてのシミュレーションを多職種と連携して行い、外出、外泊、外泊訓練、環境整備などもご家族様の協力のもと行ってきました。

また、医療依存の高い方の受け入れも積極的に行い、協力医療機関とも連携を図り、看護、介護ともに一体的なケアサービスを行いました。

今後も在宅での生活を支援していけるよう、看護小規模多機能型居宅介護の特性を生かしたサービスを行ってまいります。

看護小規模多機能型居宅介護 実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	利用者内訳								稼働率				
			医療	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	通い	泊まり	訪問介護	訪問看護	平均(人)	利用率(%)
4月	26	675	0	40	240	178	129	88	0	191	225	219	40	22.5	89.7
5月	25	720	0	39	286	195	98	102	0	191	215	250	64	23.2	86.2
6月	21	611	0	39	192	206	94	80	0	189	210	156	56	20.4	72.4
7月	21	584	0	43	159	200	91	91	0	208	201	107	52	18.8	72.4
8月	20	572	0	39	182	162	107	82	0	203	182	137	50	18.5	69.0
9月	19	564	0	39	137	157	114	117	0	192	166	144	62	18.8	65.5
10月	22	639	0	40	170	153	128	148	0	228	184	170	57	20.6	75.9
11月	26	768	18	42	256	170	116	166	0	196	229	211	114	25.6	89.7
12月	22	559	10	42	108	113	121	165	0	180	199	106	64	18.0	75.9
1月	20	492	0	33	61	100	130	168	0	173	214	69	36	15.9	69.0
2月	23	502	0	32	109	72	95	194	0	187	208	71	36	17.9	79.3
3月	22	567	0	72	117	81	113	184	0	223	209	105	30	18.3	75.9
平均	22	604	0	42	168	149	111	132	0	197	204	145	55	19.9	76.7
合計	267	7,253	28	500	2,017	1,787	1,336	1,585	0	2,361	2,442	1,745	661	19.9	76.7

平成30年度 追分 看護小規模多機能型居宅介護 事業報告

【統括】

追分 看護小規模多機能型居宅介護は令和元年5月で一年を迎えました。

地域に根付く施設として重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを出来る限り続けることができるよう、住まい・医療・介護・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組んできました。

利用内容としては施設入所待ち、看取り、在宅復帰、ご家族の介護負担軽減等のためのお泊りサービスをはじめ、リハビリや医療処置を目的とした通いサービス・訪問看護。生活を支えるため、その人らしく生活できるための訪問介護と様々なサービス内容の展開を図ってきました。看護小規模多機能の在り方、機能が周囲へも定着してきたとサービス内容を振り返り改めて感じました。登録定員29名を維持し、状態が安定した方は、サービスの定着化により他の居宅介護事業所、前介護支援専門員への移行なども積極的に取り組み、重症化や医療依存度の高い方への利用移行を行っています。

また、特養、在宅総合サポートセンター山原、訪問看護ステーション、ヘルパー事業所との連携も必要不可欠でありご本人様やご家族への的確な提案や相談窓口として求められていると実感しております。

今後はサービスの変動がさらに多くみられるなか、職員間の質の向上を目指し研修や勉強会への取り組みに励んでいき、サービス内容のさらなる柔軟性に重点をおいてまいります。

追分 看護小規模多機能型居宅介護 実績報告書(平成30年度)

実利用者数	延利用者数	利用者内訳										稼働率				
		医療	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	通い	泊まり	訪問介護	訪問看護	平均(人)	利用率(%)	
4月																
5月	19	382	0	0	49	99	148	40	46	0	96	172	97	15	12.3	65.5
6月	24	749	0		86	216	207	180	60	0	165	239	300	45	25.0	82.8
7月	26	1,045	0	0	107	281	306	289	62	0	224	226	546	49	33.7	89.7
8月	29	1,100	0		152	331	348	193	76	0	336	232	420	112	35.5	100.0
9月	29	1,136	0	0	102	257	441	255	81	0	298	183	546	109	37.9	100.0
10月	30	1,091	0	0	112	333	364	206	76	0	320	154	499	118	35.2	103.4
11月	30	1,189	0	0	84	333	456	253	63	0	332	137	617	103	39.6	103.4
12月	29	1,122	10	0	109	241	416	256	100	0	300	147	561	114	36.2	100.0
1月	28	1,210	0	0	223	269	394	246	78	0	302	189	613	106	39.0	96.6
2月	30	1,226	0	0	192	237	403	389	5	0	250	232	656	88	43.8	103.4
3月	28	1,420	0	0	84	343	417	576	0	0	296	215	816	93	45.8	96.6
平均	27	1,061	1	0	118	267	355	262	59	0	265	193	516	87	34.9	94.7
合計	302	11,670	10	0	1,300	2,940	3,900	2,883	647	0	2,919	2,126	5,671	952	34.9	94.7

平成30年度 追分 サービス付き高齢者住宅 事業報告

【総括】

サービス付き高齢者住宅 追分は令和元年5月にて一年を迎えました。

1階の看護小規模多機能型居宅介護との連携が必要不可欠でありご本人、ご家族の意向に沿った形でのお一人お一人の暮らしぶりを続けられるような場所、居場所づくりを目指してきました。

居宅介護支援事業所、病院の連携室、他多数の問い合わせがあり、他事業所の居宅を継続できるとのことから多くの居宅からの問い合わせがありました。

病院からの問い合わせでは、独居の方で退院後生活継続が難しいということで、相談が入り入居までつながることもありました。

一階に看護小規模多機能型居宅介護が併設されているため重度化の方や、医療依存度の高い方、随時サービスが必要な方でも入居でき安定した生活を継続できるよう支援させていただきました。

入居者の重度化に伴い回転率が早く入退居の入れ替えが激しい印象がありました。

自立度の高い方の要望、介助が必要な方の要望どちらにも柔軟に対応することが必須であると改めて感じています。

元々自立度が高く生活されてきた方が、転倒し骨折により状態が著しく変わり他施設の検討もありましたが、追分に戻りたいとの希望に応えられるようリハビリ強化や生活環境整備を行い、元の場所での生活に戻すことも実際関わらせていただきました。居宅との連携を図り、ご本人の状態により居宅の切り替え等も行わせていただいています。

今後も一人ひとりに沿う・添う支援を目標に在宅生活が困難な方への支援を行っていきたいと思います。

追分 サービス付高齢者住宅実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	延利用者数	食事			1日平均(人)	利用率(%)
			食事(朝)	食事(昼)	食事(夕)		
4月						0.0	0.0
5月	11	225	201	104	152	7.3	25.9
6月	20	522	450	304	455	17.4	62.1
7月	29	747	630	446	619	24.1	86.1
8月	27	808	730	549	710	26.1	93.1
9月	29	811	747	550	737	27.0	96.5
10月	28	856	753	738	976	27.6	98.6
11月	27	792	747	545	763	26.4	94.3
12月	27	837	740	563	768	27.0	96.4
1月	28	860	742	573	768	27.7	99.1
2月	28	770	636	506	661	27.5	98.2
3月	28	835	727	567	751	26.9	96.2
平均	26	733	710	545	736	24.1	86.1
合計	282	8,063	7,103	5,445	7,360	24.1	86.1

【総括】

平成30年度は介護保険の改正の年でありました。地域包括ケアシステムの構築を踏まえ限られた制度が有する画一性のサービスだけでなく、インフォーマルと言われるあらゆるサービス、地域の資源・他(多)機関・他(多)職種との連携を図り、「支援チーム」を提供しより良いケアマネジメントを実施できるようにしています。

特に個々の能力向上のため、研修・勉強会への参加、事業所内でいつでも相談できるような環境・雰囲気ことができました。事業所としての「チームワーク」は一人ひとりのケアマネの力となるところです。

【事業内容】

- 1 要介護認定等申請代行・相談業務
- 2 居宅サービス計画の作成
- 3 給付管理業務
- 4 認定調査(静岡市からの委託 他県外からの依頼も受理)
- 5 研修会・事例検討会・勉強会への参加
- 6 特定事業所加算の算定要件の維持(特定事業所加算Ⅱ)
 - ① 常勤の主任介護支援専門員配置→現4名
 - ② 常勤の介護支援専門員を3名以上配置→現 兼務含め 7名
 - ③ 利用者に関する情報またはサービス提供にあたっての留意事項に係る伝達事項を目的とした会議を定期的に行う→概ね週1回開催
 - ④ 24時間連絡体制の確保と必要時相談に応じる体制確保
 - ⑤ 計画的な研修の実施→うどケアマネ連絡会・静岡市ケアマネット協会・静岡県介護支援専門員協会に所属 計画的、積極的に参加している。
 - ⑥ 地域包括支援センターから紹介の困難事例の対応→連携をとり対応している
 - ⑦ 運営基準・特定事業所集中減算に該当していない→管理者により管理
 - ⑧ ケアマネ1人あたりの担当件数平均40件未満
 - ⑨ 地域包括支援センター等が実施する事例検討会に参加
 - ⑩ 介護支援専門員実務研修における科目「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力または協力体制を確保している→今年度は依頼なし
 - ⑪ 他の法人が運営する居宅介護支援事業所と共同で事例検討会・研修会等を実施している→⑤と同
- 7 他機関との連携と協働→ケアチームの構築
- 8 職員のメンタルヘルスケア→事業所内明るく常に声掛けできる環境づくり

居宅支援事業所実績報告書(平成30年度)

	実利用者数	利用者内訳							
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
4月	200	16	21	54	47	25	25	12	0
5月	208	15	25	52	46	34	25	11	0
6月	205	14	26	52	41	35	26	11	0
7月	205	15	27	52	42	35	24	10	0
8月	205	18	28	52	42	32	25	8	0
9月	205	18	29	54	40	32	23	9	0
10月	206	19	33	52	41	32	20	9	0
11月	209	17	33	52	42	35	21	9	0
12月	205	15	34	53	40	33	21	9	0
1月	200	17	34	50	41	30	19	9	0
2月	193	16	32	45	43	27	21	9	0
3月	195	16	33	46	43	26	22	9	0
平均	203	16	30	51	42	31	23	10	0
合計	2,436	196	355	614	508	376	272	115	0

【総括】

地域包括支援センターの委託事業にて、地域の方にも周知が進むと同時に、当センターがこれまで行ってきたネットワークづくりも顔の見える関係づくりができています。このため、個別の総合相談や介護予防プランの利用者支援にあっても、地域の方のお力添えをいただく機会が増えています。

今年度は、市の「認知症高齢者の徘徊検索模擬訓練事業」において、有度圏域がモデル地区に指定され、事業に合わせてうど在宅医療・介護・福祉連絡会を継続して行ってきました。「認知症になっても、その人らしい生活を継続していくには？」をテーマに、回数を重ね、地域住民の助け合いについて検討を行ってきました。

他方で、当センターも参画している、有度地区社会福祉協議会において「支え合い委員会」が立ち上がり、地域住民同士での支え合いについて、具体的にどのようなことができるかの議論が本格的に開始されています。

今後地域での受け皿を模索しつつ、業務を行っていきたいです。また同時に地域で行われている各種自主的な活動等にも積極的に足を運び把握に努めたいです。

【活動内容】

1) 自宅でずっとミーティングの開催（うど在宅医療・介護・福祉連絡会、地域ケア会議）

8月：第1回その人らしい人生の最期を送っていただくために私たちができること

各機関からの状況報告

11月：第2回認知症高齢者に対する各方面の取り組み

行政、法曹面、NPO各取り組み

3月：第3回認知症高齢者の自動車運転について考える。

2) 認知症高齢者の徘徊模擬検索事業の開催（新規事業）

①各実行委員会の実施

②認知症ミニ講演会（講師：宗内科医院医師）、認知症サポーター養成講座の開催

③事業の実施 平成30年12月8日（土）参加者101名。

3) 各専門職連絡会

・うど主任ケアマネ連絡会

・うどケアマネ連絡会（年3回）

・うどグループホーム連絡会（年3回）

4) 包括支援センター本来業務、4事業（総合相談、権利擁護事業、継続的・包括的ケアマネジメント業務、介護予防事業）の実施。

5) 介護予防自立支援プラン型地域ケア会議の開催（新規事業）

平成31年3月6日13時～

来年度より年4回実施予定。

有度地域包括支援センター実績報告書(平成30年度)

	実人数	利用者内訳						受付内訳					
		要支援1	要支援1(委託)	要支援2	要支援2(委託)	総合事業	総合事業(委託)	実人数	延べ人数	電話	来所	訪問	その他
4月	286	24	36	50	83	29	64	74	179	114	18	44	3
5月	290	39	64	64	122	1	0	67	163	103	13	42	5
6月	291	38	63	66	123	0	1	79	178	111	12	51	4
7月	301	26	39	52	90	30	64	75	169	117	10	38	4
8月	298	26	40	49	89	28	66	181	181	125	14	40	2
9月	311	38	78	68	125	2	0	56	174	114	22	32	6
10月	325	38	77	68	138	3	1	67	170	114	18	33	5
11月	328	38	76	70	140	3	1	50	138	94	13	27	4
12月	328	38	76	70	140	3	1	50	117	78	13	24	2
1月	327	35	79	72	137	2	2	89	201	123	20	58	0
2月	325	36	81	64	141	2	1	87	243	166	26	51	0
3月	323	37	81	64	137	2	2	79	188	126	19	43	0
平均	311	34	66	63	122	9	17	80	175	115	17	40	3
合計	3,733	413	790	757	1,465	105	203	954	2,101	1,385	198	483	35

【総括】

岡船越地域包括支援センターの委託事業は 1 年目ということで、医療、介護、福祉、地域の方と顔の見える関係をつくるため、圏域の診療所、介護保険関係の事業所、自治会や地域福祉関係者への挨拶まわりを行ないました。そして、医療・介護・福祉の連携会議や地域福祉関係者との会議、フォーマルサービスとインフォーマルサービスへつなぐための会議の開催や地域の会合等へ参加しました。結果、地域の会合への参加依頼が来るようになりました。

こうした会合への参加から、地域で行われていることやこれからやろうとしていることを知ることができました。また、アドバイザーとしての参加も増えてきました。

そして、地域の課題等も少しずつではありますが、把握することができました。

【活動内容】

1) 自宅でずっとミーティングの開催(岡船越在宅医療・介護・福祉連絡会、地域ケア会議)

11 月:抱え込まない介護(医師・歯科医師・薬剤師・自治会・民生委員・地区社協会員・桜ヶ丘病院・訪問看護ステーション・ケアマネジャー・包括職員 約 80 名出席)

2 月 :連携(医師・歯科医師・薬剤師・自治会・民生委員・地区社協会員・桜ヶ丘病院・ケアマネジャー・包括職員 約 70 名出席)

2) 地域との顔の見える関係づくり会議

12月:岡地区(自治会・民児協・地区社協・桜ヶ丘病院・居宅介護支援事業所・包括支援センター 約 60 名出席)

3月:船越地区(自治会・民児協・地区社協・桜ヶ丘病院・居宅介護支援事業所・包括支援センター 約 45 名出席)

3) 岡船越圏域居宅介護支援事業所と包括の顔の見える関係づくり会議

5月:(圏域居宅介護支援事業所 10 か所・包括支援センター)

4) 岡地区民児協:月 1 回参加

船越地区民児協:月 1 回参加

5) 岡地区社協企画委員会(地域づくり会議):1 回/月

船越地区社協企画委員会 :1 回/月

岡船越地域包括支援センター実績報告書(平成30年度)

	実人数	利用者内訳						受付内訳					
		要支援1	要支援1(委託)	要支援2	要支援2(委託)	総合事業	総合事業(委託)	実人数	延べ人数	電話	来所	訪問	その他
4月	230	29	57	34	105	2	3	36	61	39	14	8	0
5月	241	26	63	34	112	3	3	39	73	47	11	15	0
6月	249	23	67	36	118	2	3	68	68	44	14	10	0
7月	249	24	67	36	116	3	3	112	112	70	17	23	2
8月	254	24	72	34	118	3	3	59	101	61	27	13	0
9月	254	23	73	34	118	3	3	35	62	31	19	12	0
10月	260	24	74	35	121	4	2	31	82	45	18	19	0
11月	267	25	75	36	124	4	3	36	70	36	18	16	0
12月	272	24	78	38	126	3	3	34	69	48	6	15	0
1月	272	24	77	38	127	3	3	61	131	70	26	33	2
2月	261	23	74	36	122	3	3	46	100	54	27	18	1
3月	261	23	72	36	124	3	3	35	71	44	17	8	2
平均	256	24	71	36	119	3	3	49	83	49	18	16	1
合計	3,070	292	849	427	1,431	36	35	592	1,000	589	214	190	7

【事業内容】

1. 相談事業所・日中活動先と連携し個別支援計画に基づいて個々の入居者の課題に対して実践する

相談支援事業所主体の担当者会議に参加し、各関係機関の情報、本人の状況を考え個別支援計画を作成しました。また、入居者の日中活動先に見学に行き、生活の場とは違う様子を生活の場に活かしました。

2. 事業所内研修を行い専門的な支援を実施

内部研修では、他業種からの転職者や障害福祉を初めて携わる職員が多く、基本的知識から行いました。障がい特性、個々の入居者に合った支援の構築の統一がなかなかできなかったため、来年度は具体的なケースを交えて知識を身に付けていきます。

3. 相談支援事業所・ご家族との連携をする

緊急時等必要に応じて、相談員、ご家族に連絡をして対応を行いました。その結果、搬送や入院時にスムーズな対応ができ、関係機関より一定の評価を得ることができました。

入居者の急変、心理的ケアが必要な時には様子を日中活動先に情報を提供し、グループホーム内外での金銭・対人トラブルの対応を関係者で連携して行いました。

4. 日中活動先の休日対応

単独で余暇を楽しめない方に対しては、近隣ショッピングモールや商業施設等へのドライブをしました。また、グループホーム近隣への散歩活動や定期的にグループホーム入居者へのイベントを開催しました。(交流会等)

【事業内容】

1. 学校、関係機関、医療機関と連携し、個別支援計画に基づいて発達課題に応じた個別支援の実施

計画相談主体の担当者会議に参加し、各児童の個別ケースの検討を実施しました。利用児童の通っている訓練場面を見学し、生活支援の参考にできました。支援学校等で特殊な手すり等の介護機器を使用している場合では、事業所でも環境を近づけなければいけない為、見学が大変参考になりました。

運動会、文化祭、学校公開日に参加し、学校での様子を見学できました。事業所以外の活動の様子を見れたことで、支援の方法や幅が広がりました。

2. 事業所内連携により、専門職による専門的な訓練や支援の実施

定期で各分野の専門職による学習会を実施し、各職員の専門性の向上を図りました。内部研修として、担当部署以外の部署で勤務し、全児童の把握と職員のスキルアップを図ると共に、外部研修にも積極的に参加し、職員会議時にフィードバックの場を設けました。

当事業所は保育士、教員、機能訓練士等、様々な職種の経験者が豊富な為、より詳細な内部研修を行える環境にあります。この環境を事業所の強みとし来年度にも繋げていきます。

また、1人の対象児童に各専門職が携わることで、現状の発達課題に即した遊びや関わりを検討することができました。色々な角度から対象児童を観ることにより、より詳細な個別支援計画の作成ができました。

3. 家庭内での養育に対して、ペアレントトレーニングや環境整備等の支援を必要に応じて実施

当事業所では支援校等のお迎えのみの送迎を実施し、お帰りは毎日、保護者の方にお問い合わせをしました。結果、ご家族との関わりを多く持つことができ、会話を通して情報交換が頻繁となり、中には、ご家庭での困り事などを相談される方もいらっしゃいました。

利用児童のお話し以外でも、ご家族内での相談にも対応し、多種多様な専門職が在籍している特徴を活用し、専門職として保護者相談に応じることができました。

4. 創作活動、レクリエーション活動、散歩外出、リラクゼーション活動等、1日のタイムテーブルを作成し、様々な活動プログラムの提供

動物園等の観覧目的、静岡科学館るくるといった体験型の施設への外出、公共交通機関を利用した社会体験外出、駄菓子屋への購入体験外出等を、月に1回以上の割合で行いました。季節感を学んで頂く機会として、季節に応じた行事を行っています。

お花見やプール、流しそうめん、餅つき等が主な行事でしたが、併設しているグループホームの入居者様、地域にお住いの方々なども参加され、地域交流の場にもなり、利用児童の良い刺激になりました。

平成 30 年度 バアプラン相談支援事業所 事業報告

【総括】

開所初年ということもあり、改正された制度や仕組みに戸惑うことも多々ありましたが、目標に沿った支援が展開できたと思います。

利用人数に関しては、1人1人にきめ細やかな対応を心掛けている点からも45名程度を想定していましたが、緊急性の依頼も多くあり50名以上の人数となっています。その中でも定期の事業所訪問や電話連絡、受診同行等を行い丁寧な対応を継続できました。

障がい種別としては、身体障がい・知的障がい・発達障がい・精神障がいと全ての障がい者の方の支援ができましたが、計画相談員の知識以上の案件もあり、スムーズな支援を行うことができない場面もありました。

計画相談員は障害者総合支援法の知識に加え、生活保護法等の公的制度への対応も求められるため、今後の課題としては計画相談員の障がい特性や制度の知識向上が1番に挙げられるので、相談支援事務局会議や外部研修への取り組みを積極的に行い、知識向上を目指していきます。

【事業内容】

1. 3障害(身体・知的・精神)を対象とした特定相談

3障害に加え、発達障がいの方の支援も多数行うことができました。

2. 権利擁護の観点に立った相談支援の実施

利用者様、1人1人によって困りごとや希望は違いますが、相談支援を行う上で権利擁護を軸に支援展開を行うことができ、結果として支援の過程で課題が発生した際も、当初の困りごとや希望の軸から逸れずに進めることができました。

平成 30 年度 保育園 事業報告

【総括】

平成 30 年 4 月に開園し 1 年がたち、スタート時 3 人だった子どもたちも、3 月は 21 人になりました。1 年を通して沢山の方が見学に来て下さり、入園を決めてくれた方もいます。

保育理念である「その子らしく伸びていく」を念頭におきながら、愛情いっぱいの環境の中で、一人ひとりを大切にどの子も笑顔で楽しく過ごせるように職員一同力を合わせ保育してきました。これからも、子どもたちが安心できる人、場所になるように保育していきたいと思ひます。

“くま五郎”の言語聴覚士の方が定期的に来園して下さり、子どもたちと触れ合いながら言語に関するのアドバイスをもらい、保育に活かしてきました。来年度も引き続き連携を図り行っていきたくと思ひます。

【事業内容】

1. 子ども一人ひとりの思いに寄り添いながら各歳児に合った保育の実践
2. 保育の質の向上を図る為の園内研修を毎月行う
 - * <各マニュアルの読み合わせ・保護者支援・遊び・手作りおもちゃ等>
 - * 「40 のサインでわかる乳幼児の発達」の本を活用しての園内研修(年間通して)
3. 外部研修の参加
 - * 県保育士会研修 「乳児の発達について」「小児の感染症について」
 - * ふたば保育士会研修 「これからの保育・教育」「保育における絵本の活用」
「手遊び・ふれあい遊び」
 - * ちゃいるどはうす主催研修 「絵本の面白さとその種類」「自分に甘く人に厳しく」
「大きくなるのは大変」「乳幼児期に育てる力」
 - * きらり研修(障害児)「ポジティブ支援」「発達が気になるお子さんの理解と支援」
「すくすくファイルの書き方と活用」「応用行動分析」
「家庭支援の為のストレスマネジメント①、②、③」
 - * 保育士キャリアアップ研修 「乳児保育」「マネジメント」
4. 保護者参加の行事開催 入園式 参加会 祖父母お招き会 運動会 親子遠足 卒園式
5. 内覧会開催(4 月)
6. 地区の子育てトークの会に参加

平成 30 年度
施設内研修及び施設外研修の実施報告

<施設内>

月	研修名	内容	事業所
4月	全マニュアルの研修	全マニュアル、ケア基準書について	全事業所
5月	緊急時対応研修	AEDの取り扱い、緊急時の対応について	特養
6月	リスクマネジメント研修	高齢者施設のリスクマネジメントについて	特養
7月	食中毒予防研修	食中毒予防のポイントについて	特養
8月	メンタルヘルス研修	職員のメンタルヘルスについて	特養
9月	褥瘡予防研修	褥瘡予防と体位交換について	特養
10月	バイタルサイン研修	バイタル測定について	特養
11月	感染症研修	ノロウイルスについて	特養
12月	インフルエンザ研修	インフルエンザについて	特養

<施設外>

事業所	研修名
法人	社会福祉法人 監事監査研修 社会福祉法人の決算実務研修 他
特養	排泄ケア講座 感染症講座 口腔ケア講座 高齢者虐待防止講座 他
障害福祉	全身性障害者移動支援従事者養成研修 児童福祉におけるスキルアップ研修 他
居宅	認定調査員現任研修 虐待対応勉強会 他
地域包括	ステップアップ研修医療連携講座 成年後見制度活用講座 ケアマネージャー在宅医療研修 アンガーマネジメント講座 他
訪問看護	精神科訪問看護研修 他

ボランティア

氏 名	活 動 内 容
増田美容院	美容
ジョイナス	美容
志村理容院	理容
日本理美容	美容
青少年育成部	学生サマーボランティア

実習・体験学習

実 習 名	内 容
英和学院大学	相談援助実習
静岡福祉医療専門学校	介護実習

慰問

グループ名	内 容
民話のたまたま箱	民話・歌
ワームフィールド	昭和歌謡
若華美会	日本舞踊
開枕太鼓	郷土芸能

会議実施体系

会議名	日	時間	内容	参加者
経営管理者会議	第3週火曜日	16:00	事業所経営報告、運営報告、決定事項	事業所責任者、職種責任者
入所リーダー会議	第1週月曜日	16:30	運営、業務、サービス等の確認、ショートステイ処遇確認	施設長、職種責任者、リーダー
入所全体会議	第2週木曜日	17:30	各研修、サービス確認	特養職員、施設長、職種責任者
看護会議	第3週金曜日	15:00	業務確認、看護・医療の確認等、	看護職員、施設長
栄養管理者会議	第1週月曜日	14:00	業務確認、栄養確認	管理栄養士、リーダー施設長等
栄養会議	第2週木曜日	15:00	業務決定事項、確認事項	栄養職員、施設長
デイリーダー会議	第1週火曜日	17:30	サービス確認、業務確認	職種責任者、施設長
デイ会議	第2週火曜日	17:30	サービス決定、業務決定、報告	デイ職員、施設長
訪問介護事業会議	第2週金曜日	17:30	サービス確認、業務確認、報告	ヘルパー、施設長
居宅介護支援事業会議	事業所に準ずる	準ずる	サービス計画確認、	介護支援専門員
地域包括支援センター	事業所に準ずる	準ずる	事業所に準ずる	地域包括職員
RM委員会会議	第3週火曜日	16:30	事故、ヒヤリ等報告、検討、感染推進	各委員
苦情委員会会議	第3週火曜日	17:00	苦情報告、検討	各委員
安全衛生委員会会議	委員会に準ずる	準ずる	衛生環境検討	各委員
研修・機能訓練委員会	委員会に準ずる	準ずる	年間研修、機能訓練検討	各委員
排泄委員会	委員会に準ずる	準ずる		各委員
拘束委員会会議	第1週木曜日	19:00	入所会議内	各委員
優先入所委員会会議	準ずる	準ずる	入所検討	各委員
特養バイザー会議	第2週水曜日	16:30	サービス検討、職員育成	バイザー、セプター、施設長
特養会議	準ずる	準ずる	サービス確認、検討、決定、報告、職員育成	所長、多職種
事務局会議	第3週月曜日	11:30	業務確認・連絡・報告	施設長、事務局

平成30年度 苦情申出書					
受付時期	事業所	申し出人	概要	委員会の対応	結果
6月	デイカー・ピス	不明	<p>6月9日17:30 某区某名中央にて「有度の里の車が停まっているが、迷惑なので動かしてほしい。」と訪問者室へ連絡が入る。</p> <p>17:00～17:30 ご利用者様宅の駐車場に頭から入った状態でバスチーリが上がり動かなくなってしまう。連絡にはみみ出ており、車両の往来困難な状態。ご利用者様を家の中で送り、通りすがりの世事業所のドライバー様等にご協力いただき、家の前の道路脇へ寄せて駐車する。事務所へ連絡し担当オートサービスに対応依頼、現場へ向かって頂く。近隣の住民の方が集まり、詰まっていた車へ事情説明等して下さっていた。</p> <p>17:30 訪問者室へ苦情の電話を頂く。相手の電話番号は不明。</p> <p>18:00 再度苦情の電話を頂く。(車務所)すぐに相手連絡先へ電話をするも、着信拒否をされておられず(2回)</p> <p>18:20 苦情の処理が終了し、車にて担当オートサービスまで向かう。</p> <p>18:30 再度連絡を頂くも着信拒否となっている。</p> <p>19:30 施設長へ電話にて報告。以降の指示を仰ぐ。現時点で相手への連絡ができず、本日対応はこれまでとする。</p> <p>翌日等も特に苦情の連絡無し。 近隣の方からは、「運転手へのおねがいの言葉はあったが、その場での苦情等はなかった。」</p>	<p>相手連絡先へ2度、電話をするも着信拒否されておりつながらない。</p> <p>再度連絡を頂くも着信拒否は変わらない。</p> <p>施設長へ電話にて報告。以降の指示を仰ぐ。</p> <p>現時点で相手への連絡ができず、対応はこれまでとする。</p>	<p>相手への連絡ができず対応はこれまでとする。</p>
8月	居宅	ケアマネジャー	<p>8月14日18:00頃に市立病院に送られる予定のFAXが個人室に送られてきた連絡を頂く。</p>	<p>報告を受け、翌朝電話をさせて頂き、送送信となったことを陳謝する。 相手側から有度の里に限らず送送信が多いので、事業所には電話録音をお願いしているとのことだった。</p>	<p>今後は、登録した事業所を確認しFAX送信させていただく事の約束をさせて頂く。有度の里は登録済みだった。 今後、送送信のないように気を付けていく。</p>
8月	ショートステイ	匿名(本人)	<p>既存2階職員より、申し出者が居室の移動をしたくなかったのに、させられてしまったと他の利用者様と話されていた為職員が話を伺う。 8月25日フロア近くの208号室を利用していたが、緊急の受け入れのため212号室に移動してほしいとパート職員より相談を受けた。以前、同僚の利用者様の旦那様が亡くなった居室とのことで断ったが同じパート職員より強い口調で居室の移動を強要された。</p>	<p>既存2階が他職員より聞き取りを行い、パート職員が申し出者と話している際、声も大きく、申し出者に対して「頑固だね」等の言葉もあつたとの事。 申し出者は居室の移動を承知していたが、納得はしていない様子であつたとの事。 8/27 9:00 既存2階職員より対応が必要とし、ショートステイ相談員へ報告。 8/27 9:10 特養所長へ報告 8/27 9:30 特養所長より申し出者へ謝罪。今後についての要望の聞き取りを行う。</p>	<p>申し出者より同じフロアで利用を継続していきたいとのこと。 次回以降は多休室がよほどの希望が開かれたため、対応していく。 当該職員への勤務態度指導は8/28出勤時に特養所長より行う。</p>